

子どもにやさしい医療環境を支援する チャイルドライフスペシャリスト



チャイルドライフスペシャリスト くらさき 黒崎 あかね

チャイルドライフスペシャリスト(CLS)は医療チームの一員として、医療に関わる子どもの心理社会的ストレスを軽減できるように支援する職種です。山陰で初めて当院に10月2日付で着任し、小児科外来・小児科病棟中心に活動を開始しました。

本来、好奇心旺盛な子どもにとって、分からないことや知らされていないことが不安やストレスになります。そのため、入院したり治療を受けたりする子どもの理解度を確認し、その子どもの発達や個性に見合ったサポートを提供することが必要です。遊びを通して、ストレス発散や達成感の機会を提供し、子どもが持っているがんばれる力を引きだせるように援助します。また、兄弟姉妹を含む家族の不安やストレスも評価して、必要なサポートを行います。

具体的には、1)治療的遊び(ストレス発散や気晴らし遊び)、2)心理的・社会的支援、3)プレパレーション(こころの準備)、4)検査・処置中の支援、5)病院への適応支援、6)危機的状況やグリーフ支援、を行います。

CLSは子どもの心理社会的ニーズに応えるために活動しますので、子どもの検査、治療、入院などでお悩みがあれば、気兼ねなくご相談ください。



島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

11月15日～12月14日 対象者： 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

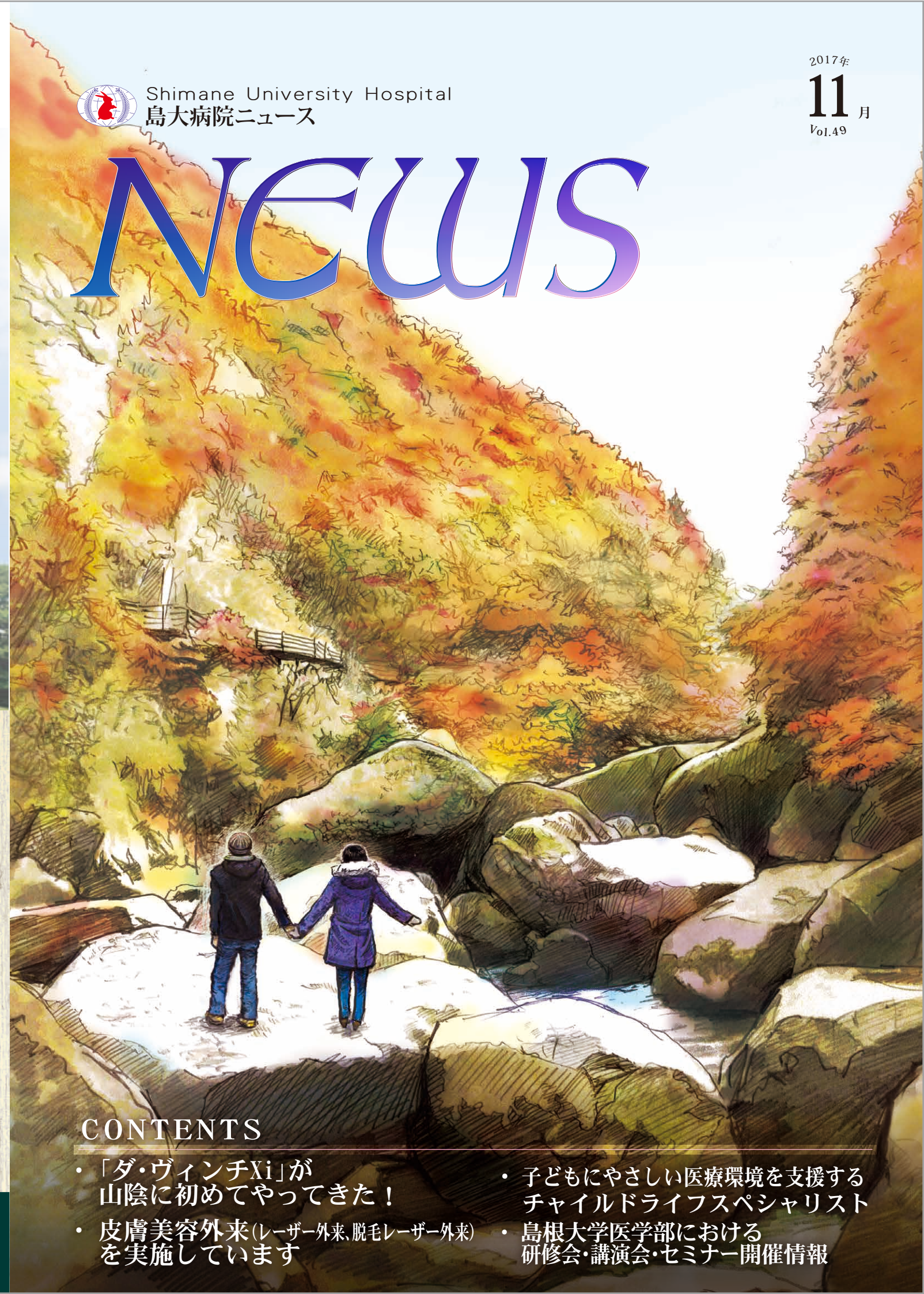
開催日	時間	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
11/15(水)	9:30～11:30	平成29年度 島根県がんピアサポーター相談会	外来中央診療棟3階 カンファレンスルーム「だんだん」	一般	島根大学病院
11/22(水)	18:00～20:00	平成29年度 島根大学がん医療従事者研修会 「食道がん、胃がんに対するレーザー治療 ……特に光線力学療法(PDT)について」	島根大学附属図書館 医学図書館3階 視聴覚室	医療 本学	島根大学病院
11/26(日)	13:30～15:30	市民公開講座 健康寿命を延ばすには?～肺炎とその予防～	みらい棟4階ギャラクシー	一般	内科学講座 呼吸器・臨床腫瘍学
12/2(土)	9:25～16:00	平成29年度 出雲NST研修会	外来中央診療棟3階 カンファレンスルーム「だんだん」	医療 本学	栄養サポートセンター
12/5(火)	18:00～19:00	看護師のためのがん診療セミナー	B病棟4階 カンファレンスルーム	医療	先端がん治療センター 腫瘍・血液内科
12/14(木)	19:15～20:30	第14回島根東部リウマチセミナー	★松江テルサ	医療 本学	共催:島根東部リウマチセミナー/ファイザー株式会社/武田薬品工業株式会社

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



Shimane University Hospital
島大病院ニュース

NEWS



CONTENTS

- ・「ダ・ヴィンチXi」が山陰に初めてやってきた！
- ・皮膚美容外来(レーザー外来、脱毛レーザー外来)を実施しています
- ・子どもにやさしい医療環境を支援するチャイルドライフスペシャリスト
- ・島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

「ダ・ヴィンチ Xi」が 山陰に初めてやってきた！



泌尿器科 教授
准教授
助教

しいな 椎名
やすもと 安本
ありち 有地
ひろあき 浩昭
ひろあき 博晃
なおこ 直子

ダ・ヴィンチって?と聞かれたら、多くの人はルネサンス期を代表する芸術家で「万能人」の異名を持つレオナルド・ダ・ヴィンチを想像するのではないのでしょうか。その名前を持つ手術ロボット「ダ・ヴィンチ」は外科治療の様々な局面で、大きな革命をもたらしました。正確に解剖（構造）をキャッチできる、緻密な作業ができる、安全に作業ができる、これらがダ・ヴィンチ手術の大きな特徴です。特に、通常の手術操作では捉えにくい、より奥行きが深い場所でその性能が遺憾なく発揮されます。前立腺や腎臓は体の中でも「奥」深いところにありますから、まさにダ・ヴィンチ手術にうってつけの臓器と言えます。

当院では2012年11月に手術ロボット「ダ・ヴィンチ」を導入し前立腺がん手術を開始しましたが、これは第2世代の「ダ・ヴィンチ S」です。今回、10月に山陰で初めてとなる第4世代の最新ロボット「ダ・ヴィンチ Xi」を当院に導入しました。この「ダ・ヴィンチ Xi」では、「ダ・ヴィンチ S」のもつ優位性を踏襲しつつ、さらなる利便性を踏まえた技術革命が現実のものとなっています(図)。

当院では2012年11月からダ・ヴィンチを使って287例の前立腺がん手術と腎がんに対する腎臓の部分切除を28例行ってきました。婦人科、消化器外科領域でもダ・ヴィンチを活用しています。今回、11月からはダ・ヴィンチの革命児「ダ・ヴィンチ Xi」を用いて、より低侵襲・安全で、かつ機能温存・制癌性をいっそう向上させた泌尿器科手術をみなさんに提供したいと考えています。みなさんの近くに泌尿器科の方がおられましたら、迷うことなく是非とも当院泌尿器科をご紹介しますようよろしくお願い申し上げます。

問合せ先 泌尿器科外来
TEL:0853-20-2387

- 図
- 1) 細いアーム
アーム干渉による手術操作の中断が減少
 - 2) 細い内視鏡(12 mmから8 mm)
鉗子挿入部位からの挿入が可能
手術部位を多方向から観察可能
 - 3) ペイシェントカートの利便性向上
患者さんのどの方向からも装着可能
 - 4) アーム可動域の改善
術中ペイシェントカートの装着脱着の必要性が減少



アーム可動域の改善

細い内視鏡
(12 mm から 8 mm)



ペイシェントカートの利便性

皮膚美容外来 (レーザー外来、脱毛レーザー外来) を実施しています

皮膚科 講師 ちぬき 千貫 ゆうこ 祐子

平成16年10月に開設した皮膚美容外来は、現在、レーザー外来、脱毛レーザー外来として継続しています。皮膚美容外来を開設した当初から販売しているビタミンC誘導体を用いた美白化粧水、またシミを薄くするハイドロキノンクリーム(いずれも1本約3,000円)は、長期間にわたり多くの患者さんに好評をいただいております。特に美白化粧水については既に2,000本以上が購入されています。近年、ニキビの治療薬として、レチノイド外用薬、過酸化ベンゾイル外用薬などが保険適用になったことにより、現在ケミカルピーリングは行なっておりませんが、シミやアザの治療としてレーザー治療を行なっています。治療の対象となるシミやアザには、おおまかに「茶色や黒色」の色素沈着症と「赤色」の血管性病変の2つがあります。当科には、治療のためにQスイッチルビーレーザーと色素レーザーを設置しています(図1)。Qスイッチルビーレーザーは、茶色や黒色のシミやアザの原因となるメラニンや、メラニンを有する細胞を選択的に破壊します(図2)。色素レーザーは、血管中のヘモグロビンに吸収され、表在性の血管を傷害することで治療効果があります。また、脱毛レーザー外来では、ムダ毛の処理にお困りの患者さんたちのために、医療用の脱毛レーザー機器を備えて対応しています(図3)。脇毛やすね毛の処理に悩む女性のみならず、毎朝のヒゲ剃りでお困りの男性も受診されています。整容的な目的での施術の多くは自費診療となりますが、まずは平日(木曜日を除く)午前中の一般皮膚科外来にご紹介ください。

問合せ先 皮膚科外来
TEL:0853-20-2382



図3. 世界で初めてFDAの“Permanent Hair Reduction(永久的減毛)”としての許可を取得したダイオード脱毛レーザー装置



図1. メラニン(色素沈着症)をターゲットとするQスイッチルビーレーザー(左)と、ヘモグロビン(血管腫)をターゲットとする色素レーザー(右)

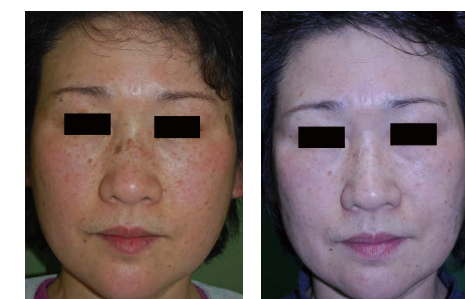


図2-1. Qスイッチルビーレーザー治療によるシミの治療前後

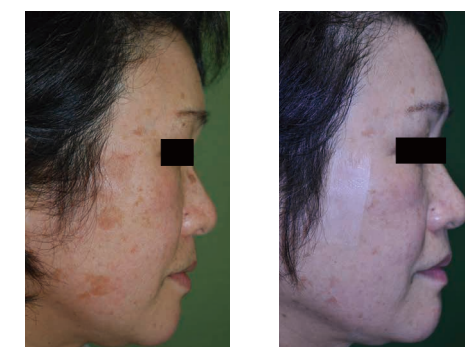


図2-2. Qスイッチルビーレーザー治療によるシミの治療前後

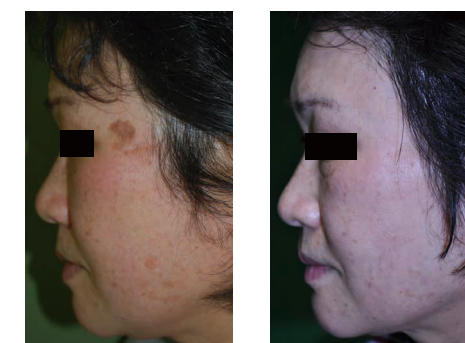


図2-3. Qスイッチルビーレーザー治療によるシミの治療前後



島大病院ニュース 2017年11月

ご報告

看護管理者宿泊研修を実施しました

看護部 看護部長 かんだ まりこ
神田 眞理子

高度外傷センターが稼働し重症患者さんが増えたことや、稼働率が94%を超える状況があり、看護師長は日々のベッドコントロール、患者さん・ご家族への対応や勤務管理などに追われ、部署間で看護を語る時間が減っている現状があります。今回、第1回看護管理者宿泊研修を企画し、研修目的を「中間管理者に必要とされるスキル(人間的成長、専門的知識、対人的能力、概念化能力)の向上」、「看護師長同士の横の繋がりを図り、看護管理上の問題や悩みなどの共有をし、明日からの看護管理への鋭気を養う」とし、10月21日(土)～22日(日)、奥出雲町の玉峰山荘で行いました。1日目は、国選定保存技術保持者：日刀保たたら木原明氏より、「たたら吹き～引き継がれる千年の技～」という演題で講演をいただいた後、「看護の伝承について考える」をテーマにグループワークを行いました。「五感を使ってプロとしての誇りをもって物作りをする技術が看護にも通じるといった」、「人と人のつながり、優しさ、誠実をもって匠の技を次へつなぐことが大切」という学びがありました。交流会では、おいしい食事とお酒をいただき、温泉にも入り、日頃の疲れを癒すことができました。2日目は、金言寺、櫻井家可部屋集成館などを見学し、雨ではありましたが自然の中でリフレッシュできました。職場を離れて2日間過ごし、「日頃感じていることや悩みが共有でき、よい時間が過ごせた」、「横の繋がりが出来たり、親睦が深まった」と感想があり、この研修を通して、看護師長同士の繋がりを深めることができ、互いに情報交換し合い、他の部署の話聞くことで自部署の看護を考え、看護の質の向上への意識付けが強まりました。



島大病院ニュース 2017年11月

ご報告



平成29年度認知症研修会を開催しました

認知症疾患医療センター センター長 やまぐち しゅうへい
山口 修平

認知症疾患医療センターは、認知症疾患の診療に加えて、地域における認知症医療と介護の連携強化と最新情報の提供のために、毎年、研修会や連携会議を開催しております。

平成29年度は「地域で支える認知症ケア～認知症の人と家族の会、認知症カフェの取り組みから～」と題しまして、公益社団法人認知症の人と家族の会前代表理事の高見国生氏と、藤田保健衛生大学医学部認知症・高齢診療科教授の武地一先生の2名の講師を迎えて9月24日(日)に認知症研修会を開催しました。高見氏は、我が国で最初に認知症の人と家族の会を京都で設立され、その後全国に展開され、我が国の認知症施策に大きな影響を与えてくれました。武地先生は、やはり京都において認知症カフェを最初に開始され、その経験と成果を講演していただきました。

島根県医師会館を主会場として県内6か所の会場をTV会議システムで中継し、当日は、県内外から150名以上の医師、歯科医師をはじめ様々な職種の方に参加していただきました。今回は認知症患者とその家族の方の生活面をいかにサポートするかという観点からの研修会企画で、参加された医師の方からは、「認知症に対して医療ではなく生活面からの関わりとしての取り組みを知れて考えが変わった。」、「認知症カフェも地域の学びの場であることがわかった。」というお声をいただきました。

問合せ先 認知症疾患医療センター TEL: 0853-20-2630



平成29年11月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



平成29年11月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2017年11月

ご報告



毎月楽しむ和みのひととき ～病院ボランティアコンサート～

当院では、患者さんやご家族のみなさんに心とむひとときを過ごしていただけるよう、定期的に「病院ボランティアコンサート」を実施しています。

去る9月29日(金)19時より、病院1階待合ホールにて、出雲ロータリークラブ主催の出雲楽友協会音楽家会員による「クラリネット、ファゴットとピアノによるコンサート」が開催されました。

患者さんやご家族の皆さんは、優雅な音色の本格的な三重奏を、間近で存分に楽しんでおられました。クラシックの名曲から、歌謡曲、フォークソングなど様々なジャンルの曲が奏でられ、後半の「小さな四季」と題された童謡と唱歌のメドレーでは、たくさんの方が一緒に口ずさんでおられました。

アンコールでは、コンサートホールさながらとなった会場に手拍子が沸き起こり、笑顔あふれる和やかな初秋のひと時となりました。

今後の予定

時間: 19時～
場所: 病院1階
待合ホール

- ♪ 11月17日(金) 創作朗読楽団「Repos(ルポス)」
- ♪ 12月 8日(金) 島根大学 混声合唱団
- ♪ 12月22日(金) 島根大学病院ドクターズ木管五重奏団
- ♪ 1月19日(金) ハーモニカボランティア 大坂

問合せ先 医療サービス課 TEL: 0853-20-2068



平成29年11月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2017年11月

ご報告



今年も「奥出雲フェア」を開催しました

栄養治療室 室長 ひらい じゅんこ
平井 順子

昨年度、入院患者さんへ奥出雲町特産の食材を活用した病院食を提供する「奥出雲フェア」を開催し、好評であったこともあり、本年度も「奥出雲フェア」を開催しました。

この「奥出雲フェア」は、本学が奥出雲町と地域活性化と人材育成を目的として包括的連携協定を締結したことをきっかけに、特に産業振興の面からの連携を行なうために企画しました。

今年は平成29年9月29日から10月19日の間、毎週木曜日の夕食時に行ない、「奥出雲和牛」、「奥出雲シイタケ」を使った料理を提供しました。美味しい奥出雲の食材を楽しんでいただけたと思っています。また、このイベントをととして、おいしい食材やこのイベントをととしていろいろな楽しみをもっていただけたのではないかと考えております。

今回も多くのご意見や感想をいただきました。今後も、患者さんにとって楽しみとなる、おいしい食事を提供していけるよう努力していきます。

患者さんの感想

- 「美味しく食べて元気をもらった感じ」
- 「たくさんは食べられなかったけど、手作りのカードやパンフレットがあっという間だった」
- 「奥出雲和牛は柔らかくて食べやすかった」
- 「病気も早くよくなるような気がしました」
- 「病院食で味わえると思わなかった。中山間地の食材の良さがにじみ出ております」
- 「直接自分の口で確認することができ、奥出雲町の特産品に興味を持つことができた」 など



平成29年11月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2017年11月

お知らせ



病院内「市民ギャラリー」の作品紹介

当院では、B病棟1階に「市民ギャラリー」を設けており、市民の皆さまが無料で展示していただけるスペースとして、多くの方にご利用いただいております。

10月からは、(有)大田美工の大田寿子様の「コルク絵」を展示しております。

これまで、主にネコ等の動物を対象として、コルクに水彩画を描いております。
コルク材という優しい材料に、ネコ等の動物を描くことにより、より優しく癒しのある作品となっております。

また、これらの作品は、島根信用金庫本店や、出雲支店等においても展示しており、大変好評を得ております。

作者である大田寿子様は、二科展のデザインの部で入選した経歴をお持ちであり、今回は、これまで作成された作品の中から、厳選したものを展示しております。
ぜひお立ち寄りいただき、作品をご覧ください。

当院では、引き続き、皆さまからの作品を募集しております。

詳細につきましては、当院のホームページをご覧ください。

(<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/pickup/gallery.html>)

この取り組みを通じて、より一層地域に根ざした病院となるよう努めて参りますので、当院に対するご支援をよろしくお願いいたします。

問合せ先 総務課企画調査係 TEL: 0853-20-2018



平成29年11月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2017年11月

ご報告



平成29年度 島根大学優良教育実践表彰を受けました

放射線治療科 講師 たまき ゆきひさ
玉置 幸久

このたび平成29年度島根大学優良教育実践表彰を受けました。

この表彰は教員の教育面での実績に対する功労を表彰し、教育技術の向上を図ることを目的に毎年行われています。

教育のさらなる質向上を図りたいという服部学長の強い意志を受けて、今年度から公開での審査となりました。

全学部から候補者が集められ、平成29年8月9日に審査が行われた結果、4名の個人と4つのグループが選考され、医学部医学科からは私の「小グループ学習でのレクチャーにおけるアクティブラーニングの実践」が選出されました。

表彰式は9月22日に本学松江キャンパスで行われ、服部学長よりお祝いのお言葉を頂戴し、表彰状を授与していただきました。

服部学長の式辞では地域に根差した教育を行うことが重要だということ、また教員の教育力を上げることが地方大学である島根大学を成長させていく重要なキーとなるといったお言葉を頂戴しました。

医学教育も従前のようなスタイルは通用しなくなってきました。教育理論に基づく論理的な教育実践を大事にしつつ、最新の教育研究結果を積極的に取り入れ、多様な価値観を持つ学生に対して柔軟な発想で教育を行うことが、現代の社会が医学教育に求めるニーズだと考えます。質の高い医学教育を提供できるようにこれからも研鑽を積んでいく所存でございます。



平成29年11月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2017年11月

ご報告



第14回 島根大学医学部附属病院関連病院長会議を開催しました

10月19日(木)18時からニューウェルシティ出雲において「第14回島根大学医学部附属病院関連病院長会議」を開催しました。

この会議は、当院への患者さんの紹介や、当院からの医師の派遣等を通して関係の深い病院・診療所との意思疎通を図ること、また、地域医療に貢献することを目的として設置され、毎年1回開催しており、今年で14回目を数えます。会議には、島根県内46関連病院の病院長等と、井川病院長を始めとする当院関係者40名が出席しました。

冒頭で井川病院長から挨拶があった後、「教育・研修」、「診療体制」、「診療」、「先進医療」、「臨床研究」という題目に分け、それぞれ地域医療支援学講座、卒後臨床研修センターやしまね地域医療支援センターの取り組み、高度外傷センター、総合ハートセンター、先端がん治療センターの活動報告、その他当院の診療、先進医療及び臨床研究に対する現状や取り組み状況等について、報告が行われました。中でも当日発表があった研修医のマッチング結果は、最もホットな情報として出席いただいた先生方にお伝えすることができました。

最後に井川病院長より当院からの医師派遣の現状や今後の方針について、また当院の運営状況についてお伝えし閉会しました。



ご報告
島大病院ニュース

平成29年11月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2017年11月

ご報告

院内防災訓練 (院内ライフライン講習会) を実施しました

会計課施設管理室 室長 よねはら まさたか
米原 昌隆

昨年11月12日(土)に中国地区DMAT(Disaster Medical Assistance Team:災害時派遣医療チーム)実働訓練と連動して院内災害訓練を実施しました。病院長を始め、多数の医師、看護師、医療職員や事務職員が参加し、実践的な訓練を実施することは、電気・給水・医療系ガス等のライフラインがいかに重要であることを認識することとなりました。しかし、ライフラインの設置場所や構造、規模等は周知されていないこともあり、災害時に担当者が不在ともなれば一層の混乱をきたすことも予想されます。本来、非常時にこそ必要となる災害用備蓄品や非常食の保管場所も同様です。

そこで、6月20日(月)に開催した第1回目の院内防災訓練に続き、10月5日(木)に第2回目を実施しました。災害対策本部長である井川病院長や災害対策本部付となる医師や看護師長、コ・メディカルスタッフ、事務部職員の多彩な職種23名の参加があり、中央機械室の集中管理室から自家発電機と電気供給体制、地下共同溝の配管、受水槽、マニホール室や災害備蓄品を順次視察しました。それぞれの施設毎に説明役である会計課施設管理室担当者から概略説明を受ける形で進め、初めて目の当たりにする設備に熱心に質問する姿も見られました。今後も、ライフラインに対する理解を深めるために引き続き講習会を実施する予定です。



中央機械室集中管理盤前



中央機械室地下ビット配管



中央機械室ボイラー前



井水管理施設前

ご報告
島大病院ニュース

平成29年11月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2017年11月

ご報告



ハイブリッドERにつきて

高度外傷センター センター長 わたなべ ひろあき
渡部 広明

当センターでは、重症外傷および重症救急診療を迅速に行うため当センター棟内に「ハイブリッドER」を設置いたしました。

ハイブリッドERとは、救急初期診療室、CT室、手術室、血管造影室の4つの機能を兼ね備えた最先端救急診療ユニットです。一般にハイブリッドOR(手術室)と呼ばれる手術室に比して、より多機能の治療ユニットであるとされています。ハイブリッドERはわが国においてそのコンセプトが確立され、現在国内に9台が稼働しているのみで、当センターのものが国内8台目となります。従来、重症多発外傷の治療では救急初療室での初期診療後、CT室、手術室さらには血管造影室への移動が必要でしたが、ハイブリッドERを使用することで患者さんを移動することなく、より迅速にCT検査や手術など高度な治療を開始することが可能となります。稼働後の2ヶ月間にハイブリッドERを使用した64例の検討では、患者さん搬入からCT検査開始までは平均7分36秒、止血術開始までの最短時間は搬入から2分と従来に比して極めて迅速な検査および治療開始が可能となっています。また、本ユニットは完全手術室空調(空気清浄度クラス10000)のハイブリッドOR(手術室)機能を持ち合わせていることから、現在これを利用した経カテーテル大動脈弁留置術(TAVI: transcatheter aortic valve implantation)の開始に向けての施設認定申請を行っております。

ハイブリッドERはその機能から考えて重症救急診療を行うに当たっては夢のような診療ユニットと言えます。従来救命することができなかった重症救急患者さんの救命を可能にすることが大きく期待されています。



島大病院ニュース 2017年11月

ご報告

第42回 「くえびこ祭」が開催されました

医学部学務課長 さかもと えいじ
坂本 英治

医学部の大学祭「くえびこ祭」が10月14日(土)・15日(日)の二日間、学生による実行委員会の主催で開催されました。今年のテーマは～だんだん、大切な人に～です。自分たちを支えてくれる多くの人たちへの感謝と、それが「段々」に広がっていくことを願ったものだそうです。

あいにくの空模様でしたが、野外ステージでのダンス部のパフォーマンスや軽音楽部の演奏で若いエネルギーをはじけさせ、室内では写真部や茶道部などが日ごろの活動の成果を発表していました。また、お約束の模擬店は工夫を凝らした軽食がお祭り気分を盛り上げてくれました。特に留学生の模擬店では、お国の珍しい料理が訪れた人たちに喜ばれていました。

多くのゲストも来場、初日は松江市出身の山根万理奈さんとロックバンドHalo at 四畳半のライブ、二日目はお笑いライブが開催され、若い人たちからの歓声がキャンパスに響いていました。

血管年齢の測定・がんサロンなどの医学部ならではの企画や、近隣の保育園などの子供たちのかわいいパフォーマンス・塩冶体育協会協賛のグラウンドゴルフ大会など地域の人たちとの交流も図られるなど盛りだくさんのイベントが企画され、多くの来場者を楽しんでいただける大学祭になりました。





島大病院ニュース 2017年11月

ご報告

コミュニティ・デザイン学習プログラム 進行中です！

地域医療支援学講座 准教授 さの ちあき
佐野 千晶

「コミュニティ・デザイン」と横文字にするとなんだか小難しいのですが、人と人とがつながる仕組みがあって、その地で長く安心して生活できることのように思います。今年度は、浜田市弥栄町をフィールドに9月15・16・17日の3日間、まち作りに関する調査・インタビューを行いました。医学部、生物資源学部の学生達と一緒に、フィールドワーク等のコミュニティ・デザイン学習が進行中です。弥栄町には、当院のような病院はありませんが、仮に弥栄町住民が突然重病になったら、本人とご家族の生活はどう変わっていくのでしょうか。そして仮に弥栄町で病気とともに生きていくには利用できる制度、交通、医療、人的資源、経済資源にはどんなものがあるのでしょうか。そういった事を議論し合い、アンケート調査ならびにまちづくりに関わる方々からのヒアリングなどを行っています。学習を通じて、弥栄町の住民の皆さんが、将来不安は多いものの、予想よりもずっと周囲とつながって楽しく生活されている様子が分かってきました。

病院・診療所が地域に根差していくために、医師が患者さんのことを理解するために、「コミュニティ・デザイン」の発想が役にたつことを期待して、研鑽しています。新鮮なアイデアを持つ学び仲間を現在も随時募集中です。で、宜しくお願い致します。



ご報告
島大病院ニュース

平成29年11発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2017年11月

ご報告

文部科学省 未来医療研究人材養成拠点形成事業「地方と都会のライフイノベーション」 在宅医療を考える市民の集い 「あなたのお家で、今日からできるケアの話」 を開催しました

地域医療政策学講座・教授 ひろせ まさひろ
プログラム・コーディネータ 廣瀬 昌博

文部科学省事業「地方と都会のライフイノベーション」プログラムの一環として、10月22日（日）の午後、医学部臨床講義棟臨床小講堂にて、在宅医療を考える市民の集い「あなたのお家で、今日からできるケアの話」を開催しました。本事業は5年間の事業で、これまで多くの活動を行ってききましたが、台風と総選挙というダブルで予期せぬ出来事にもかかわらず、多くの市民の方々にご参加いただきました。

会の冒頭、井川幹夫病院長から参加者の皆様に参加の御礼とともに挨拶を述べた後、講師の先生方7名の紹介がありました。講師は、出雲市役所医療介護連携課 森口修三 課長、いずも歯科クリニック 林 恵美 歯科医師、当院しまね認知症疾患医療センター 安部哲史 助教、当院リハビリテーション部 蓼沼 拓 助教、間壁史良 言語聴覚士主任、江草典政 療法士長ならびにすぎうら医院 杉浦弘明 理事長の方々でした。超高齢者社会における複雑化、多様化したニーズにこたえ、円滑なケアを提供するには、在宅医療を基本とした地域包括ケアの構築が重要で、行政や多職種、関連施設による連携が不可欠です。講師は、それぞれの分野でエキスパートとして活躍の方々に、「お話し」の内容は、行政の仕組みや在宅医療の実践を中心に、口腔ケア、嚥下機能や栄養、住居環境の話題に加え、最後には在宅医療提供の際の事項など、患者さんやそのご家族の方々が今日にでも役立つ話題でした。「集い」への参加のみなさんは熱心な方ばかりで、中には、「嚥下機能の改善に役立つ簡単な方法を教えてほしい」などの質問もありました。

このように台風にも総選挙にも負けず、活気あふれる雰囲気の中かで「集い」は、40名の市民の方を含め64名もの多数のご参加をいただき、成功裏に終えることができました。

本会は、出雲市役所、出雲医師会ならびに出雲市歯科医師会のご協力を得て開催させていただきました。最後に、ご参加いただきました市民のみなさんはもちろん、講師の先生方や関係諸機関のみなさまに心より御礼申し上げます。



ご報告
島大病院ニュース

平成29年11発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2017年11月

ご報告

第1回男性看護師会を開催しました。

看護部 看護部長 かんだ まりこ
神田 眞理子



現在看護部には54名の男性看護師が各部署で活躍しています。山陰地区でも最大規模の人数となりました。今年度には男性看護師会を組織化し、看護部の委員会に位置づけました。そこで、第1回の男性看護師会総会を10月24日(火)に開催しました。

男性看護師会は、男性看護師間での情報交換を行い、日々の看護で生じる問題や疑問、キャ

リア形成等について解決策を考える機会を設けたり、社会貢献を行うことを目的としています。

必要に応じて召集し、情報交換、問題解決の検討等を行っていくことや院内外の行事である看護の日のイベント、キャンパススクリーンデー等への参加、地域の文化祭や催し等に参加し、地域の方との交流も図っていく活動を計画しています。

これからも、今まで以上に男性看護師が活躍できるように頑張っていきたいと思いますのでご支援をよろしくお願い致します。



ご報告
島大病院ニュース

平成29年11月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2017年11月

お知らせ

第16回島大総合医セミナー

飯塚病院 総合診療科

清田雅智先生を招いて

この度、第16回島大総合医セミナーを開催致します。前回に引き続き、飯塚病院総合診療科 清田雅智先生をお招きしてレクチャーを行ないます。多数のご参加と活発な討論をお願い致します。

参加費
無料

事前申し込みは
不要です。



平成29年

11月18日(土)

16:30~19:30

講義棟1階 国際交流ラウンジ

司会: 和足 孝之(卒後臨床研修センター助教)

・レクチャー

『勉強の仕方とcareer design～島根で第二の清田を作るために～』

※11月18日のセミナーは島根県医師会指定の生涯教育講座 **3単位** です。



11月19日(日) 9:00~12:00

・ER実地研修

今回も当院ERに於いてwalk in patientを対象とする実地診療指導を行ないます。要領は18日のセミナー時に説明します。

本セミナーは、「リサーチマインドを持った地域医療指導者養成システムの構築」及び「未来医療研究人材養成拠点形成事業“リサーチマインドを持った総合診療医の養成”」の一環として開催いたします。島根における総合診療・救急医療のさらなる発展を目指して皆様のご意見、ご提案をお寄せください。

主催: 島根大学医学部附属病院 / 島根大学医学部医師会

問合せ先 卒後臨床研修センター 0853-20-2006 / 地域医療教育学講座 0853-20-2542

お知らせ
島大病院ニュース

平成29年11月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





世界糖尿病デーイベントを開催しました

内分泌代謝内科 助教 もりた みわ
守田 美和

11月4日(土)に「世界糖尿病デー 出雲大社ブルーライトアップ」と「平成29年度糖尿病週間行事講演会」を開催しました。

糖尿病週間行事講演会では、健康チェックコーナーはとても人気で参加者の方の健康意識の高さを感じました。糖尿病を専門とする医師らを中心としたアンサンブル音楽会ではダンスや歌も加わり盛り上がりました。理学療法士による運動指導でも皆で心地よい汗を流しました。世界糖尿病デーの解説も行い、本イベントの意味についてもご理解いただけたと思っております。

夜の出雲大社ブルーライトアップでは心配していた雨もやみ、昨年よりもまして沢山の方にお越しただけでした。Doライトさんの出雲ブランドLEDライトによる御本殿ブルーライトアップはとても幻想的で、勢溜・参道の小ライトのイルミネーションも人気でした。

当院スタッフによる実行委員会を中心に、糖尿病患者会の皆さん、多くの医療施設のスタッフと共に運営いたしました。皆様の変わらぬご理解とお力添えに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

